

第三者からの否定的評価への恐れが援助行動に及ぼす影響

堅田 結衣

援助行動の抑制因として傍観者効果のうちの一つと言われている聴衆抑制が挙げられる。

聴衆抑制とは、周りの人々の目や評価を意識し、失敗を恐れたり不安になったりすることから、援助の実行をためらってしまうことである。本研究では援助場面における第三者からの利己的動機推測を推測することによる聴衆抑制が、どのような場面において及びどのような人物において生起しやすくなるかを検討することを目的とする。先行研究をもとに援助要請状況と否定的評価への恐れ(FNE)が重要な要因になると考え、次の4つの仮説を立てた。

仮説 1: 被援助者が援助を拒否する場合、援助可能者は第三者からの利己的動機推測を推測しやすくなる。

仮説 2: より第三者からの利己的動機推測の推測をするほど、援助行動の生起は抑制されやすい。

仮説 3: FNE が高い人ほど第三者からの利己的動機推測の推測を行いやすい。

仮説 4: 援助拒否場面では援助要請曖昧場面と比べて、より FNE を感じる第三者であるほど利己的動機推測の推測が起りやすく、さらに援助が抑制されやすい。

これらの仮説を検討するために、質問紙調査による実験を行った。実験計画は、被援助者による援助要請(曖昧・拒否; 参加者間要因)、第三者との関係性(他人・友人; 参加者内要因)の2×2の2要因混合計画である。分析を行った結果、仮説 1 は支持されず援助の拒否は利己的動機推測の推測に影響しないことがわかった。仮説 2 はシナリオによって支持される傾向がある結果となったが、ほとんどの場合利己的動機推測の推測は援助行動の生起に影響を及ぼさないことがわかった。仮説 3 は支持され、利己的動機推測の推測をするほど援助行動が抑制されることが示された。仮説 4 については、FNE から利己的動機推測の推測のパスは有意に示され、第三者がより FNE を感じる対象であるほど、利己的動機推測の推測をしやすことが示された一方で、利己的動機推測の推測から援助行動へのパスは示されなかった。

これらの結果から、援助要請状況要因は利己的動機推測の推測に影響しないこと、FNE という性格特性が利己的動機推測の推測に影響することが明らかとなった。今後は、場面想定法による制約や他の評価懸念の存在を考慮して検討していくことが望ましい。(社会心理学)